

教育委員会だより

令和5年4月26日号 多治見市教育委員会 教育総務課

くめざす子ども像
お互いを尊重し、
主体的に学び、
挑戦する多治見の子

『第3次多治見市教育基本計画』が始動

令和4年度に策定した第3次多治見市教育基本計画（R5～9）である『たじみ教育生き生きプラン』に基づく多治見市の新たな教育がスタートしました。めざす子ども像を「**お互いを尊重し、主体的に学び、挑戦する多治見の子**」とし、その実現のため、次のような理念を軸に据えて取り組んでいきます。

家庭、学校・園、地域での関わりを通して認識した自分の良さや可能性（**自己有用感**）をもとに、夢や目標に向かって努力（**挑戦**）し続けることで、主体的に考える力（**自立力**）、多様な他者と協働する力（**共生力**）を育て、小さくても確かな自信（**自己肯定感**）につなげる。

本計画におけるキーワードは“挑戦”です。予測困難な社会といわれる将来をたくましく生き抜くために、子どもの時期だからこそ臆することなく挑む、つまずいても粘り強く立ち向かう、そんな姿勢を育てていきます。

まずは、あらゆる機会を捉えて全教職員に第3次多治見市教育基本計画の周知徹底を図っていくことを、校長会・教頭会でお願いしたところです。

68名を仲間に迎えて ～辞令交付式・受入れ式～

4月3日（月）、とうしん学びの丘エールにて『令和5年度多治見市小中学校教職員辞令交付式及び転入教職員受入れ式』を執り行いました。転入職員68名を代表して共栄小学校の加藤隆史校長が挨拶を、新規採用者を代表して昭和小学校の渡邊綾菜教諭がサービスの宣誓を行いました。

渡辺教育長からは、お迎えした教職員の仲間間に対する期待、新規採用者への激励、多治見市の教育方針（教育環境県下No.1・第3次多治見市教育基本計画、子どもに軸足を置いた教育）や今日的課題（GIGAスクール構想3年目・不登校対策・キャリア教育・教職員の働き方改革）等に触れての挨拶がありました。

＜転入者＞ 61名
校長9名（新任3、転任6）
教頭12名（新任7、転任5）
教諭39名（小21、中18）
養護教諭・栄養教諭0名
事務職員1名
＜新規採用者＞ 7名
教諭5名（小4、中1）
養護教諭2名（小2）
栄養教諭・事務職員0名

不登校等への手厚い支援 ～教育支援員の配置～

本年度から、第3次多治見市教育基本計画における不登校・不適応対策、学力向上の目玉事業のひとつとして『教育支援員』の配置がスタートしました。4名の教育支援員が、重点校の4小学校に常駐し、継続的な支援にあたっています。

配置に至った背景は、次のとおりです。

- （1） 全国学力・学習状況調査等の各種調査結果から、基礎学力の定着と無気力による不登校に因果関係が認められた。
- （2） 岐阜県が35人学級を全学年で実施することにより、基礎学力の定着に時間を要する子どもに対応する少人数加配教員の確保が困難になった。
- （3） 特に学習内容の系統性が強い算数科においては、中学年でのつまずきが高学年でのさらなる困り感につながっている傾向があること。
- （4） 不登校・不適応の二次的な影響として、学習面のつまずきが登校や授業参加を一層困難にしている傾向があること。

不登校・不適応児童対策として、本市独自の新たな取組となります。その運用にあたっては、教育支援員間の連携、教育支援員と市教委・学校（管理職）の連携が不可欠となります。どのような運用方法がよりよい支援につながるか、検証を重ねながら進めていきます。



副教育長のひとりごと「食育って大切！」

4月の校長会・教頭会で、食育推進課から「給食一言指導資料」が示されました。給食指導というと「しっかり手を洗う」とか、「ナフキンを敷く」とか、「衛生的に配膳する」とか、「残さず食べる」とか、「時間内に食べ終える」とか、一言でいうなら“目に見えること”への指導が多くなりがちです。一方で、本市が『食育センター』と名付けているように、食を通じた教育という側面から考えると前述の指導では一面的といえます。かく言う私もそんな指導に陥っていたことは否めませんが、担任の先生が毎日一言でいいから学校給食のねらい（感謝の心・食文化・心身の健康・社会性・食品を選択する力・食事の重要性）に触れて声をかけることが大切です。先生自身の給食の思い出でも、食べ物の好みでも構いません。毎日続けることで子どもの心に染み込んでいき、いずれ食に向かう姿勢そのものが変化してくると思います。

